

## 教員養成における水泳実習を通じた自然体験活動に関する資質の変容

下永田 修二 (千葉大学)

### 学習指導要領における水辺活動 (内容の取り扱い)

- 自然との関わりの深い雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート、**水辺活動**などの指導については、学校や地域の実態に応じて積極的に行うこと
  - 平成10年の学習指導要領から水辺活動が追記された**
- 平成29年度改訂の指導要領においても
  - 従前どおり、地域や学校の実態に応じて積極的に行うことと示された

### 学習指導要領における集団宿泊活動 (特別活動—学校行事)

- 遠足・集団宿泊的行事
  - 平成元年の学習指導要領から遠足・集団的宿泊活動が追記された**
- 平成29年度改訂の指導要領においても
  - 自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や・・・
  - と**宿泊を伴う集団活動**の体験を積むことが示された

### 自然体験活動の推進

- 学校教育法 (2001年)
  - 「体験的な学習活動、特にボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の充実に努める」
- 第2期スポーツ基本計画 (2017年)
  - 「スポーツ参画人口の拡大」の項目
    - 「野外活動等に関する指導者の養成」**

### 自然体験活動指導に関する現状

- 長期宿泊体験の実施に際して (文科省 2008)
  - 「宿泊地や活動場所の確保、活動プログラムの検討、指導員の確保、子どもの安全確保等」が必要
- 養成段階において、自然体験活動に関わる能力をどのように育成するのか (濁川ら 1998、降旗ら 2009、豊澤ら 2010)
- 「教員養成において、自然体験学習は必須科目である」 (宮野 2014)
- 教師や保育士のほとんどに豊かな自然体験や、その高い指導・支援の能力が備わっているとは言い難い (西島 2008)

### 水泳 (遠泳) 実習のこれまで

- 1903年 (明治36年) : 東京高等師範学校 (3里遠泳)
- 明治41年 : 東京府立高等学校 (水泳合宿)
- 大正5年 : 中学校で湖を横断
- 大正14年 : 静岡県の小学校

矢野ら (2005)、木村ら (2010)

水泳実習の現状  
(遠泳の実施状況)

- 臨海行事実施割合 (2013年)
  - 小学校17.1% (2007年:21.3%)
  - 中学校6.5%(2007年:12.2%)
  - 高等学校5.3%
  - 大学29.7%

藤原ら (2018)

水泳実習の現状  
(遠泳の実施時間)

- 小学校 47分 (2007年:30分)
- 中学校 75分 (2007年:56分)
- 高等学校 110分 (2007年:103分)
- 大学 113分 (2007年:81分)

藤原ら (2018)

学校における遠泳の意義

- 体力的効果
- 心理的効果
- 社会的効果
- 技能の向上
- 安全管理

**遠泳の教育効果は大きい**  
(本田 2018、木村 2010、矢野 2005)

遠泳実施の減少理由

- プールの普及
- 安全確保の難しさ
- 適切な海浜確保の難しさ
- **指導者の不足**
- **教員の意識の低下**
- 経費負担の問題
- 社会的圧力 (責任問題)
- 天候の影響

木村 (2010)、清水 (1993)

教員養成段階における実践的指導力の育成

- 教育実習がその中心
- 教育実習以外の授業科目との関連
- 教員養成カリキュラム全体を通して実現を目指す  
有吉 (2009)
- 模擬授業も含めた教育実践と教育理論を融合した  
カリキュラムの構築 (有吉 2009、根岸ら 2013)

目的

- 教員養成における水泳実習を複数回、異なる立場で参加することが自然体験活動を指導する資質、能力に与える影響について検討

### 対象授業

- 平成27年から29年の3年間に実施した授業において水泳実習を受講した学生の中で調査に協力の得られたもの
- 学部学生
  - 体育実技：94名
    - 水泳（中学校教諭（保健体育）免許：必修、小学校課程体育科選修 選択必修）
    - 保健体育科教材研究Ⅳ（実地指導方法論）：27名（体育実技（水泳）の単位取得後、指導的立場で水泳実習に参加）
- 大学院生
  - 野外実習実践研究：13名（ほとんどの学生が教員免許を取得しているため、大学教員との間に入った指導的役割で参加）

### 方法

- 調査項目：宿泊を伴う自然体験活動等を指導するために必要な資質に関する調査
- 43項目
  - 長澤（2002,2004,2005）、別惣ら（2003）の自然体験活動指導に求められる教員の資質能力に関する調査研究を参考に作成
  - 実習前後に、5段階評価を実施
  - 調査の時点で教員として、児童・生徒を指導することが十分にできるかどうかを回答
  - （1：できない、2：あまりできない、3：どちらとも言えない、4：できる、5：十分にできる）

### 調査項目（1）

- 1.危機的な状況に対する対応を予見しながらプログラムを進めていくことができるか
- 2.計画どおりに進まなかった場合にその場に応じて判断することができるか
- 3.本実習に関する知識を身につけているか
- 4.本実習に関する技術を身につけているか
- 5.本実習を統括責任者として指導することができるか
- 6.参加している児童・生徒をまとめることができるか
- 7.事故等への応急処置に関する知識を身につけているか
- 8.事故等への応急処置に関する技術を身につけているか
- 9.自然の中から情報を読み取る能力を身につけているか
- 10.自然環境の保全と活用に関する知識を身につけているか
- 11.自然観察や野外活動等の経験が十分に積んでいるか
- 12.自然体験活動プログラムの企画・運営に対する指導者層の共通理解を回ることができるか
- 13.自然体験活動プログラムを企画・開発することができるか
- 14.自然体験活動への情熱を持っているか
- 15.自然体験を自ら楽しめる感覚、構えをもっているか
- 16.自然に関する興味・関心をもっているか
- 17.自然体験活動の目標達成のための適格調整を十分に行うことができるか
- 18.自然体験活動を実施する場所の知識を身につけているか
- 19.児童・生徒が危険な場所、事故等に遭遇した場合に、適切に対応することができるか
- 20.一般社会人としてのマナーと常識を身につけているか
- 21.児童・生徒が主体的に行動できるように促すことができるか
- 22.児童・生徒に明るく振舞うことができるか

### 調査項目（2）

- 23.児童・生徒に安全指導を適切に行うことができるか
- 24.児童・生徒に意欲をもって、主体的に指導できるか
- 25.児童・生徒に自然体験活動を指導する能力を十分に身につけているか
- 26.児童・生徒に生活習慣や社会的ルールを指導することができるか
- 27.児童・生徒にレクリエーションやゲーム等を指導する技術を身につけているか
- 28.児童・生徒の安全・保健面に関する判断を適切に行うことができるか
- 29.児童・生徒の心のケアをすることができるか
- 30.児童・生徒の自然観察・自然理解を指導する技術を身につけているか
- 31.児童・生徒の自然体験活動に対する意義と価値を理解できているか
- 32.児童・生徒の相互人間関係づくりを支援することができるか
- 33.児童・生徒の病気への対応に関する基礎的な知識を身につけているか
- 34.児童・生徒の病気への対応に関する実際の手当方法を身につけているか
- 35.児童・生徒への指導に関する知識を身につけているか
- 36.自分自身の健康管理ができるか
- 37.社会教育の目的・意義を認識できているか
- 38.人権に配慮し、正確で丁寧な言葉遣いができるか
- 39.他の教員、スタッフと協力するような人間関係づくりができるか
- 40.動植物、森林等の自然に対する知識を身につけているか
- 41.プログラムの企画段階で状況の変化を予見することができるか
- 42.自らが元気に、楽しく活動に取り組むことができるか
- 43.自然体験活動を行う体力を十分にもっているか

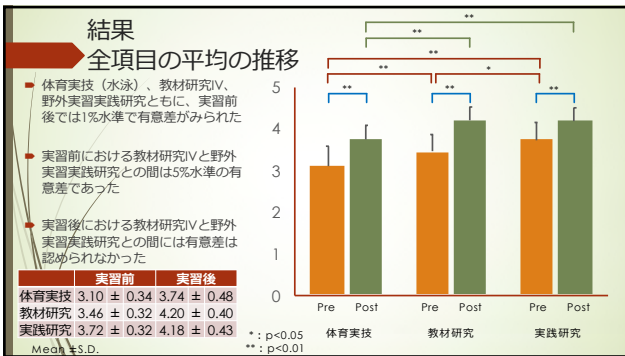
### 水泳実習の日程表

	事前フル実習		水泳実習			
	事前	1日目	2日目	3日目	4日目	
AM			準備・用具運搬 水慣れ <上級> 隊列泳40分間 <中級> 15分間泳 <初級> 平泳ぎ、立ち泳ぎ	救助法 各種泳法 <上級> スキンドイビング、 隊列泳 <中級・初級> 隊列泳30分間	<上級> 遠泳補助 <中級・初級> 本遠泳 1時間30分	
PM	(2時間) W-up、50m平泳ぎ測定 個別練習 <上級> 各種泳法、20分間泳 <中級> 各種泳法、15分間泳 <初級> 浮身、けのび、呼吸法、 平泳ぎ、各種泳法	移動	<上級> 隊列泳60分間 <中級> 隊列泳30分間 <初級> 20分間泳 平泳ぎ、 立ち泳ぎ15分間、 隊列泳20分間	<上級> 本遠泳（2時間） 中級：隊列泳40分間 初級：隊列泳30分間	片づけ 閉講式	
Night		ガイダンス 開講式 合宿生活	救命法	講義 レクリエーション		

### タイムスケジュール

	時間
起床	6:15
体操	6:30～6:45
清掃	6:50～7:20
朝食	7:30～8:00
午前実習	9:00～11:30
昼食	12:00～12:30
午睡	12:30～14:00
午後実習	14:00～16:30
入浴・自由時間	16:30～18:00
夕食	18:00～18:45
講義	19:30～20:30
自由時間	20:30～21:30
点呼	21:45
消灯	22:00





- ### 自然体験活動指導に関する資質の7因子
- 別惣（2003）自然体験活動指導に関する資質を7因子に分類
- 自然体験活動プログラムへの共通理解と集団指導力
  - 安全管理や安全指導の能力・知識
  - 自然体験活動に関する知識
  - 自然体験活動のための企画・指導技術
  - プログラムを推進するための状況予測力と対人関係能力
  - 自然体験活動への関心・意欲
  - 体力・健康

### 自然体験活動指導の資質に関する7つの因子ごとの変化

資質に関する7因子	体育実技		教材研究		実践研究	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
自然体験活動プログラムへの共通理解と集団指導力（項目：5.6,12,13,17,21,24,26,31,35,37） （得点）	3.02	3.62	3.28	4.06	3.50	4.05
安全管理や安全指導の能力・知識（項目：7.8,19,20,23,28,29,33,34） （得点）	2.94	3.71	3.37	4.19	3.62	4.09
自然体験活動に関する知識（項目：3.9,10,11,18,27,40） （得点）	2.70	3.48	3.19	4.03	3.53	4.04
自然体験活動のための企画・指導技術（項目：4.25,30） （得点）	2.70	3.57	3.26	4.03	3.36	3.95
プログラムを推進するための状況予測力と対人関係能力（項目：1,2,22,32,38,39,41） （得点）	3.44	3.94	3.64	4.31	3.97	4.36
自然体験活動への関心・意欲（項目：14,15,16,42） （得点）	3.69	4.18	4.10	4.63	4.32	4.44
体力・健康（項目：36,43） （得点）	3.79	4.18	4.20	4.74	4.42	4.58

- ### 調査項目ごとの比較
- 実習前後および複数回、違う立場で実習に参加することによる変化を検討
  - 調査項目ごとの検討方法
    - 全項目の平均に対して、1標準偏差以上、数値に差がある項目を抽出

### 平均より大きく評価が高い項目

項目	体育実技		教材研究		実践研究	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
14.自然体験活動への情熱を持っているか			○			
15.自然体験を自分が楽しめる感覚、情熱を持っているか	○	○	○	○	○	○
16.自然に関する興味・関心を持っているか	○	○	○	○	○	○
20.一般社会人としてのマナーと常識を身につけている	○	○				
22.児童・生徒に明るく話しかけることができるか	○	○	○	○	○	○
24.自分自身の健康管理ができるか	○	○	○	○	○	○
28.人に配慮し、正確で丁寧な言葉遣いができるか	○	○	○			
39.他の教員、スタッフと協力するよう人間関係づくりができるか	○	○	○	○	○	○
42.自分が元気に、楽しく活動に取り組みることができるか	○	○	○	○	○	○
43.自然体験活動を行う行為を十分に知っているか	○	○	○	○	○	○

### 水泳実習の前後で伸びが大きかった項目

項目	体育実技	教材研究	実践研究
3.本実習に関する知識を身につけているか	○	○	○
4.本実習に関する技術を身につけているか	○	○	○
6.参加している児童・生徒をまとめることができるか	○	○	○
7.事故等への応急処置に関する知識を身につけているか	○	○	○
8.事故等への応急処置に関する技術を身につけているか	○	○	○
9.自然の中から情報を読み取る能力を身につけているか			○
11.自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか	○		
12.自然体験活動プログラムの企画・運営に対する指導者間の共通理解を促ることができるか			○
13.自然体験活動プログラムを企画・開発することができるか	○		
18.自然体験活動を実施する場所の知識を身につけているか	○		
21.児童・生徒が主体的に行動できるように促すことができるか			○
29.児童・生徒の心のケアをすることができるか	○		
30.児童・生徒の自然観察・自然理解を指導する技術を身につけているか			○
31.児童・生徒の自然体験活動に対する意義と価値を理解できているか			○

**平均より大きく評価が低い項目**

項目	体育実技		教材研究		実践研究	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
5.本実習を視察責任者として指導することができるか	○	○	○	○	○	○
7.事故等への応急処置に関する知識を身につけているか	○					
8.事故等への応急処置に関する技術を身につけているか	○					
9.自然の中から情報を採り取る能力を身につけているか	○	○	○	○		
10.自然環境の保全と活用に関する知識を身につけているか	○	○	○	○		
11.自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか	○	○	○	○	○	○
12.自然体験活動プログラムの企画・運営に対する指導者間の共通理解を図ることができるか					○	
13.自然体験活動プログラムを企画・開発することができるか	○	○	○	○	○	○
18.自然体験活動を実施する場所の知識を身につけているか	○					
25.児童・生徒に自然体験活動を指導する能力を十分に身につけているか	○					
30.児童・生徒の自然観察・自然理解を指導する技術を身につけているか					○	○
33.児童・生徒の病気への対応に関する基礎的な知識を身につけているか		○				
34.児童・生徒の病気への対応に関する実際の手当方法を身につけているか	○	○	○	○		
40.動植物、森林等の自然に対する知識を身につけているか		○	○	○		

**水泳実習の前後で伸長が小さかった項目**

項目	体育実技	教材研究	実践研究
15.自然体験を自らが楽しめる感覚、構えをもっているか		△	
16.自然に関する興味・関心をもっているか		△	
20.一般社会人としてのマナーと常識を身につけている	△	△	△
22.児童・生徒に明るく振舞うことができるか	△	△	
36.自分自身の健康管理ができるか	△	△	
38.人権に配慮し、正確で丁寧な言葉遣いができるか	△	△	
39.他の教員、スタッフと協力するような人間関係づくりができるか			△
40.動植物、森林等の自然に対する知識を身につけているか			△
42.自らが元気に、楽しく活動に取り組むことができるか	△	△	△
43.自然体験活動を行う体力を十分にもっているか			△

**まとめ1**

- 各実習前後で、自然体験活動を指導するために必要な資質に関する自己評価が向上する
- 体育実技（水泳）と教材研究、実践研究との間では、有意に自己評価が高まる
- 教材研究と実践研究（大学院生）の実習後では、有意差がみられなくなる

● 水泳実習を2回経験することは、指導に必要な資質に関する自己評価を高める上で効果がある

**まとめ2**

- 自然体験活動指導の資質に関する7因子ごとにみても、すべての項目で高まる傾向がみられる
- 教材研究の学生は、どの因子においても向上率が高い傾向にある

● 実習参加の回数に関係なく、指導に関する資質の因子ごとの自己評価は全体的に高まる傾向にある

**まとめ3**

- 自ら楽しめる感覚、構え、意欲・関心、明るく振る舞う、健康管理などの教員としても基礎的な能力は全体的に高い傾向にある
- 各実習前後で伸びが大きい項目は、実習参加の回数で違いがみられる
  - 初回の体育実技では、基本的な技能と経験
  - 教材研究では、参加者をまとめること、活動を実施する場所やプログラム
  - 実践研究では、指導技術、参加者が主体的に行動できるように促すこと

上記のようにシフトしていく

**まとめ4**

- 平均より評価が低い項目は、実習全体の統括、経験、プログラムの企画・開発に関する項目であり、実習全体を企画・運営することは十分ではないと感じている
- 実習への参加回数、関わり方で、身につける内容が変化する

→ 実習全体を統括、企画、運営する資質をつけるための内容についても今後、検討していく必要がある